

検討会 番号	第2回 case3
年齢(代)	70代
性別	女性
S (subjective) : 主観的情報	
主訴	肩の痛み(電動自転車での転倒による)
既往歴	アレルギー性喘息(x-6~ x-4年) ⇒オノンカプセル・アドエア・タリオン・麦門冬湯
	(アレルギー)スギ、ヒノキ、ハウスダスト
	(手術歴)不明
	(出産) 子供 40代女性・40代男性 (事故)
家族歴	(父) (母) (子)
現病歴	(医師による診断名)2型糖尿病、高血圧症
	(発病様式・内容・経過)下部参照
	(服薬)インスリン注射・グルメピリド・テネリア・ベニジピン塩酸塩
O (objective) : 客観的情報	
受傷日	x年9月 (初診はx-5年)
所見(脈・舌・バイタル等)	(バイタル)spO2:99 体温:36.3° 脈拍:76 ペインフルアーク陽性、拳上制限・痛み、外旋制限・痛み (脈) 数・実 (舌) (腹)
	(硬結) (圧痛) (腫脹)
A (assessment) : 評価	
評価・弁証	(弁証)気滞
	(評価法) (流派)
P (plan) : 計画 (治療)	
治療計画・指導	「整形外科での精査をお願いし、肩関節部の状態を把握してから鍼灸の適応をみましょう。」と伝え、近隣の整形外科を受診して頂いた。診断の結果、鍼灸継続となった。1/wの鍼灸施術を継続、1か月程度は仕事時にご自身でテーピングをしてもらうよう指導した。
	(取穴)左肩の標治、圧痛点を中心に取穴、背部兪穴の反応点と本治(補土を目的として)
	(刺鍼法)置鍼・散鍼・撚鍼 (時間)

	(得気)状況で (深さ)2mm~2cm
	(頻度)週1回
特記事項	

症例検討会用シート

部外秘

経過：

受傷日(x年9月)の通勤時(雨天)にタイルの上で電動自転車のタイヤをすべらせて転倒した。
+2d 経過して来院、痛みを耐えて働いていたとの事であった。ペインフルアークサイン陽性、挙上制限、外旋制限。転倒は左肩の外側部を強く打ったとの事であったが、肩関節前面から肩鎖関節付近に直径5cm程の内出血が見られ、肩腱板の急性断裂や肩鎖関節部の脱臼や損傷、肩関節周囲の骨折などを否定する事ができなかったため、整形外科での精査を強く勧めた(本人は嫌がっていた)。近隣の整形外科でのMRIを元にした診断では、肩関節離開、鎖骨遠位端骨挫傷、僧帽筋損傷、棘上筋腱の変性、という診断であった。また、骨折等がなかったため、本人の希望もあり引き続き鍼灸治療の継続となった。週1回の施術を継続し、x年12月(10回目施術時)には痛みのVAS値が27/100まで軽減した。

肩関節亜脱臼

前方不安定性テスト、後方不安定性テスト

Rockwood 分類

type1：肩鎖関節の捻挫レベル。

type2：肩鎖関節亜脱臼

type3：肩鎖関節脱臼 鎖骨が上方に脱臼

type4：肩鎖関節脱臼 鎖骨が後方に脱臼(稀)

type5：肩鎖関節脱臼 鎖骨が元の2倍以上、上方に脱臼

type6：肩鎖関節脱臼 鎖骨が下方に脱臼(稀)